

延辺朝鮮族自治州の投資先としての魅力度

高木 誠 司

はじめに

筆者は、二〇〇七年七月に日本機械輸出組合（日機輸）香港事務所に赴任し、香港にベースを置きながら、二年強にわたり、中国のマクロ経済状況の調査、そして、日本企業を中心とした中国各地（及び周辺国）の投資環境の調査を行ってきた。今回、初めて、延辺朝鮮族自治州を訪問する機会を得たところ、筆者の中国の投資環境に関する全体的な印象を書いた上で、そういう人間から見て、延辺がどう見えるかについて、その後に記述したいと思う。

日本企業による中国投資全般の印象

筆者は、香港駐在を開始して以降、賃金上昇し、労働契約法が制定されるなど、中国、特に沿海地域において、事業コストが上がる中で、日本企業による中国外への移転、内陸部への移転の進展に関心を持って、調査を進めてきた。

二年が過ぎた時点での、現時点でのとりあえずの印象は、多数の日本企業にとっては、中国

沿海部において、コストの上昇はあるものの、沿海部での産業集積、インフラ状況などを考えると、沿海部から内陸部への移転、あるいは、ベトナムなどへの移転のメリットは限定的。このところ、経済情勢の悪化により、一部事業の再編成もあるが、それもこれまでのところ必ずしも順調には進んでいない。

ただ、沿海部中心の投資のトレンドが変わらないというのは、高付加価値の製造業に限った話であり、他の業種ではもう少し状況は多様。製造業でも、低付加価値な製品の生産という、海外への移動のスピードは早い。

また、原材料立地産業では、中国国内でも内陸地域での投資も多い。また、ソフトウェア会社の場合、求める人材さえいけば、投資先選定の柔軟性は高い。小売業、販売部門は、内陸部の需要拡大に対応し、内陸部により積極的に進出していく動きもある。

延辺朝鮮族自治州訪問

延辺朝鮮族自治州と言くと、北朝鮮と強く結びついた印象で、これまで投資環境を調査する

対象とはあまり考えていなかった。縁あって、亜細亜大学の延辺朝鮮族自治区の調査ミッションに参加することとなった。前述の中国での日本企業の大まかな印象から言って、一部原料立地の日本企業などが存在するのだろうかと思いつながら、調査に参加した。

現地政府などの説明では、自治州内主要産業は、木材加工業、漢方薬製造業、食品加工業など。外国企業投資を見ると、九割以上は、韓国企業による投資。それ以外では、香港企業、日本企業、米国企業が存在し、更に極少数だが、北朝鮮企業も存在。外国企業による投資でも大多数が農林水産品関係の投資。

ただ、韓国企業の中には、農林水産品関係投資に比べるとIT分野での投資を行っている企業も散見された。今回訪問した日本企業は、IT企業と食品企業。食品企業は予想通りではあったが、IT企業が存在するとは思っていなかった。この点は少し予想外だった。

延辺投資のメリット

今回訪問した日本企業等から延辺に進出するメリットを聞くと、日本語レベルが高いし、全体的な教育水準も高い、日本に近接している、一部の原料が現地で調達しやすい、給料、土地などのコストが安い、といった点。更に個人的に印象が強かったのは、日本人が生活しやすいところという点。それぞれを簡単に評価すると、以下の通り。

(1) 日本語のレベルが高い

延吉では、朝鮮族においては、少し前までは、朝鮮語の勉強に引き続いて、外国語としては日本語を勉強する人間が多く、日本語のレベルは非常に高い。日本語学習者は、中国国内の大学入試でも有利であり、それも日本語を学習するインセンティブになっていた。延辺大学の研究者を見て、三〇〜四〇歳以上の研究者を見て、かなり日本語が出来るとの説明。

残念ながら、一〇年ぐらい前から、中国内で仕事を得るにはやはり普通語を勉強しないといけないということ、多くの親が普通語学習に相当に力を入れはじめ、外国語としては、英語を勉強する人間が増えてきており、高いレベルにあった日本語のレベルも多少下がっているとは言え、全国平均から言えばまだまだ高い水準。日本語を勉強しても、なかなか仕事につながらないことが日本語学習者の減少を招いており、一定の日本企業の進出により、これに歯止めがかかることが期待されている。

(2) 日本から近接している
延辺が日本から近いという話だが、確かに、日本からの直線距離は短い、日本から飛行機で来ても、直行便がなく、思ったよりも時間がかかる。船便だが、延辺朝鮮族自治州からロシア側を通じての日本への輸送に、ザルビノ経由の航路が、何回かの実験も進み、定期的に運航されているのは、状況の改善。大連を経由した輸送ルートに比べると、相当の時間短縮に。ただ、ザルビノ港から新潟港へのルートを使うと、新潟から日本国内各地への長距離輸送

が必要となるし、コスト面でも、まだまだ、大連ルートに比べて相当高い。

北朝鮮ルートだが、これは、羅津港を経由したルート。北朝鮮国境を越えて、羅津港まで相当のたがた道を行くし、港湾関係の料金も高いなど、経済的なイメージビリティはまだもう少し。また、港を出てからの輸送に海外企業(韓国、中国)を利用して思っても、港側が荷物の輸送の面で、海外籍の船よりも北朝鮮の船を優先するし、海外籍の船だと港湾利用料も相当に高く、結局、基本的には北朝鮮の船を使わざるをえなくなり、信頼性、コストとも低レベルということになってしまいうだ。ということ、日本からはまだまだ遠い存在だが、一旦動き出せば、将来性への期待は大きいかもしれない。

(3) 給料・土地が安い、原料調達容易
給料や土地などのコストが安いのは、企業にとってメリットは大きい。コストが低廉ということに加え、他の観点から見ても利点があるということであれば、投資先としての有望性が高まる。また、原料調達の容易性だが、自治州政府の説明でも、州域内の八割を森林が占めており、野生動植物、薬用植物、鉱物資源も豊富。特定の食品産業、医薬品産業には、魅力的な投資先ということが言える。

(4) 日本人として比較的住みやすい環境
中国にしては落ち着いた雰囲気であり、北朝鮮国境に近いことによる緊張感が強いわけでもない。韓国料理が多く、油の少なくなじみやす

い料理も多く、日本人として住みやすく、働きやすい印象。進出日本企業の進出経緯を聞くと、もともと延辺出身者が当該日本企業で働いており、その縁で、その会社の方が当地を数度訪問される中で、投資を決定という話を複数聞いた。実際に言ってみると良さがわかるので、多少とも当地を投資先として考慮されるなら、とりあえず、一度訪問することを薦めたい。

最後に

(投資先としての評価と今後への期待)

全体として見ると、日本の多数の企業が重視する、関連産業の集積という面では、魅力は薄いし、日本企業が内需狙いで来るのも早すぎる感じ。ただ、日本語人材が比較的多く、日本との距離が近づきつつあるし、自然資源が豊富であり、日本人として働きやすい環境も備えており、投資先としての魅力は大いにある。

当面は、日本語人材の活用による、小規模なソフトウェア投資、食品・林産業などの原料立地などの比較的限定的なセクターでの更なる投資が期待される。今後、日本との距離が実際に更に近づいた際には、大きく化ける可能性が高い。その際には、日本人として比較的働きやすい環境というものが、大きくプラスに効いてくると思われる。個人的にも、この地域が、今後、どのように大化けしていくか、定期的にウォッチをしていきたいと考えている。

(たかぎせいじ・日本機械輸出組合香港事務所 長)